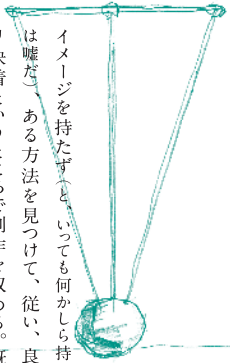
SHOW-CASE PROJECT Extra-1

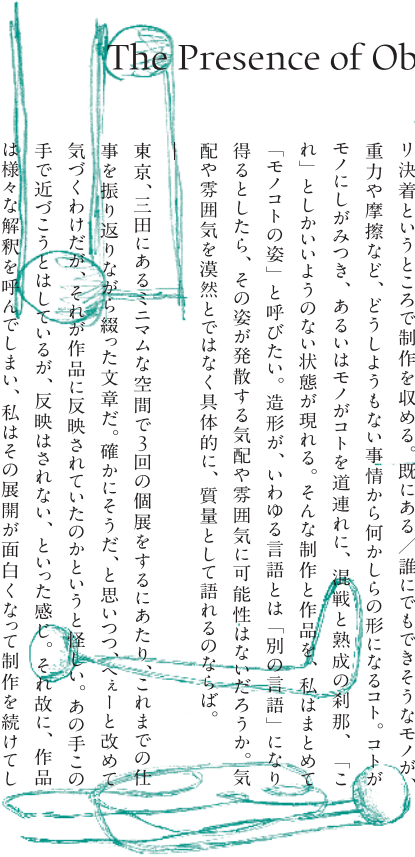
Motohiro Tomii: The Presence of Objects and Matters

冨井大裕　モノコトの姿



イメージを持たず（といっても何かしら持ってしまうわけだが）、期待もせず（それは嘘だ）、ある方法を見つけて、従い、良いも悪いもなく（これも嘘だ）、ギリギリ決着というところで制作を収める。既にある／誰にでもできそうなモノが、重力や摩擦など、どうしようもない事情から何かしらの形になるコト。コトがモノにしがみつき、あるいはモノがコトを道連れに、混戦と熟成の刹那、「これ」としかいいようのない状態が現れる。そんな制作と作品を、私はまとめて「モノコトの姿」と呼びたい。造形が、いわゆる言語とは「別の言語」になり得るとしたら、その姿が発散する気配や雰囲気に可能性はないだろうか。気配や雰囲気を漠然とではなく具体的に、質量として語れるのならば。

東京、三田にあるミニマムな空間で3回の個展をするにあたり、これまでの仕事を振り返りながら綴った文章だ。確かにそうだ、と思いつつ、へぇーと改めて気づくわけだが、それが作品に反映されていたのかというと怪しい。あの手この手で近づこうとはしているが、反映はされない、といった感じ。それ故に、作品は様々な解釈を呼んでしまい、私はその展開が面白くなって制作を続けてしまうわけだ。現在はこんな風に制作と作品のサイクルが回っている。　冨井大裕



2024.10.21［月］—2025.1.24［金］

11:00–18:00　土日祝・12月28日–1月5日 休館　入場無料

慶應義塾大学アート・センター ［三田キャンパス南別館1階アート・スペース］

POSTCARD

料金別納郵便

慶應義塾大学アート･センターは冨井大裕と3年間にわたる展示プロジェクトを始動します。
展示室という四角い箱、それはまたひとつの「展示ケース」かもしれない。SHOW-CASEは展示の場であり、ケースを見せる（展示のケース）と言うことでもある。作家はそこに何を仕掛け、空間はどう応えるのか。その「出来事」が3年連続するとき、何が見えてくるのか。
小さな展示室から発信する新しい挑戦を是非、ご覧ください。

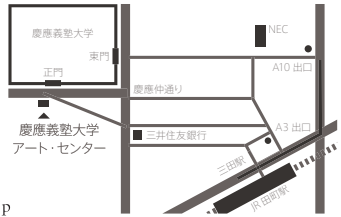
関連イベント　＊予定は予告なく変更されることがあります。詳細はウェブサイトをご確認ください。

［トーク］開催日｜2024年11月30日［土］14:00–
登壇者｜冨井大裕×林 卓行（東京藝術大学芸術学科教授）

［ワークショップ］開催日｜2024年12月7日［土］14:00–　講師｜冨井大裕

KEIO UNIVERSITY ART CENTER

主催｜慶應義塾大学アート･センター
Organized by: Keio University Art Center
108-8345 東京都港区三田2-15-45
2-15-45 Mita, Minato-ku, Tokyo, 108-8345, Japan
Tel. 03-5427-1621 / Fax. 03-5427-1620
http://www.art-c.keio.ac.jp ac-tenji@adst.keio.ac.jp



「風船と自立」の為のドローイング　2024　紙に鉛筆